

成年



さるが
オード



膣内射精

なんてエロい単語であろう。
直接的過ぎて、流石の私も
ちょっと赤面してしまう。

普段読んてるBL小説には
めったに出てくる事の無い
単語だし、字面としては
左程慣れてはいない。

だが、実体験としては
よく知っている。
いや、よく見ていると
言った方が正しいか。

私はよく、戦場ヶ原先輩と
岡良々木先輩のセックスに
交ぜてもらうのだが。
その際、基本的に戦場ヶ原
先輩は膣内射精を要求する。
その瞬間は、ラブとエロの
クライマックスだ。

ちなみに私は、ご遠慮
させてもらっている。

なぜなら、それは
「恋人同士の
聖なる行為」
だから。







ああ……この体位は
先輩に犯されてる
興奮してしまった

ううつ……
神原のが
絡まる……

先輩もつと
な気持ちよく
持ってくれ

そりや
毎日鍛えてる
からな







よし！
イッちやえ
神原！



うおっ！

陰塗愛私す
茎れ液以こ
かたで外いの！
く流れ込ん
くるわ：ん
大量の精液が

素い瞳
内見透精
な光景

…今は
想像も
け出でない

かさ中
恋人も
私に
来し
れるの

なんですか
駄場ケ原先生

…ねえ神原

いいわ
もえ

そんな風にして、たまに
混ぜてもらつたりしながら
時は過ぎ、二人は卒業。
学校で、私は一人になった。

時がまた過ぎて。

「妊娠、ですか!?」
「ええ。時期的にはあなたも
参加してたあの時よ多分」
そうだよなあ。

あれだけ後先考えず中出しを
しまくつていれば、出来るものでは
出来ちゃうだろう。

「おめでとうございます」
「ありがとう…ちょっと提案
なのだけど」
「なんでしょう」
「私の彼氏であり夫となる
岡良々木暦…貸してあげる」
「!?」
「前から考えていたのだけど、
そろそろあなたも中出しを
体験してもいいわけ」
「でも…」
「もちろん、避妊はする事。
……いいわね？」

私の心は、喜びと不安と
罪悪感と期待と…
いろんなもので満たされた。





それまでも
ホント隠麗になつたな

もうだな
一痴女なので良かつたよ

…ありがとう
気持ちだけ
受け取つておく

嬉しいよ
心と
口が熱くなつた

そうだ
記念に贈つてやるうか
高いのは無理だけど

左手は
結婚指輪とか
しなきやだもんな











あれこれ迷ったけれど、結局は
これで良かったのだと思う。

行為 자체はもちろんの事、
あ二人に甘えていた自分と
決別できる気がしたからだ。

中で射精を感じ、長い間ずっと
求めていたものが与えられて、
心はとても満足され走けれど。

「精子と卵子を結合させたい」
と、新たな欲求が生まれたのだ。
要は、子供が欲しい、と。

その相手は、残念ながら
両良々木先輩ではない。

だから、私は。
自らの足で、立ち上がりねば
ならないのだ。

私の愛する戦場ヶ原先輩。
見守ってくださいね。

END

おまけ
おでこみき

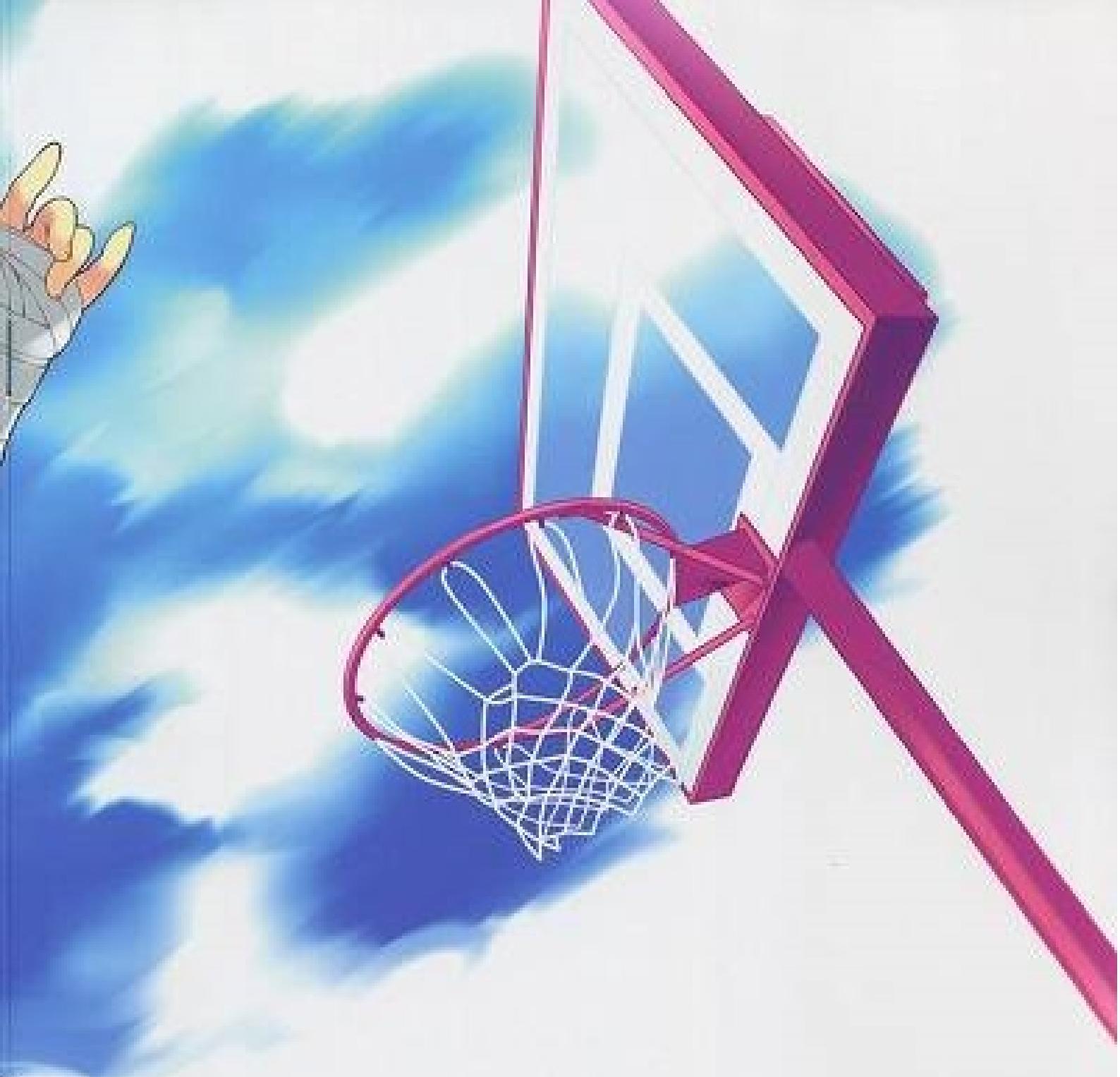
おまけ
おでこみき

おまけ
おでこみき

おまけ
おでこみき

おまけ
おでこみき

おまけ
おでこみき



するがゼンナーブ

化物語ファンブック 激賞選書